



阿久根の資源を言語化する —日常と阿久根の魅力を繋ぎ、伝えるレポ記事の作成—

法文学部 人文学科 多元地域文化コース 2年 池袋暖乃

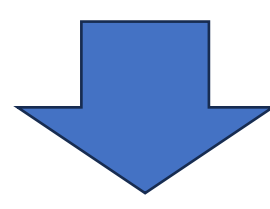
株式会社下園薩男商店

- ・本社：鹿児島県阿久根市
- ・ウルメイワシの丸干しを中心とした水産加工販売業 + 地域商品の企画、ショップ・宿泊施設の運営など
- ・企業理念：『今あるコトに一手間加え、それを誇り 楽しみ、人生を豊かにする』

【課題】

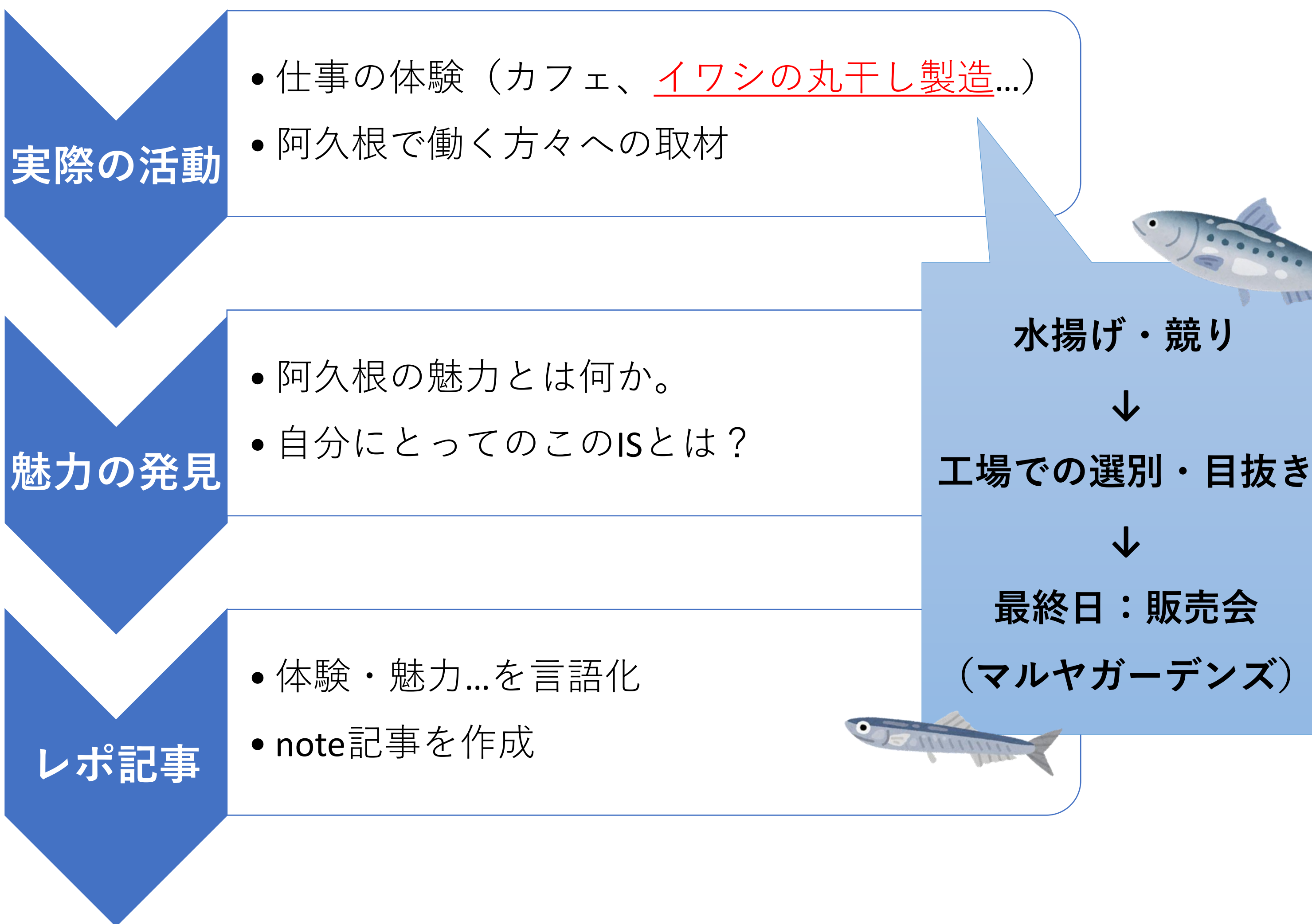
提示課題：学生目線で取材をし、阿久根の資源を言語化して記事を作成する。

今ある資源をいかに**有効にPRする**かがカギ！
そこに「**言語化**」という手段は大きく関わるのではないか。



「阿久根の魅力・インターンシップでの学びを言語化し、阿久根のPRに使用できるようなレポ記事を作成する。」

【インターンシップの流れ】



【実際の活動から】

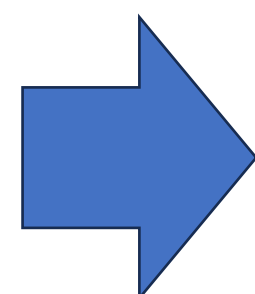
①記事の作成に向けて

- ・取材から得たまちおこし観
- ・阿久根のまちの**魅力**
- 企業理念・体験・取材と自分の人生との関連

②マルヤガーデンズでの販売会に向けて

- ・水揚げから経験して「売る」⇔いきなり「売る」**違い**
- ・インターンシップ生が行う**販売会の価値**

③これらの「体験」「所感」を言語化する。



課題は

①②→阿久根の魅力の探知
体験から何をどう活かすか

③ →言語化する際の工夫

の**二重構造**だと捉えた。

言語化
での工夫

阿久根の魅力の探知
体験から何を抽出するか

【最終成果（レポ記事の作成）】

《前提》

そもそもレポ記事とは...
5W1H + 自分（自分にしか書けないもの）

- 【目的】から...
阿久根の魅力・阿久根でのインターンシップの発信の役割をもつ必要**有**
×ただ体験・学び・感想を書き連ねる**レポ記事**
○**読者が読みたくなる工夫を仕込んだレポ記事**

《体験から何を抽出するか》（内容の検討）

×単なる「他人の体験」を読むだけ
親しみやすい・共感をもって読める・面白く

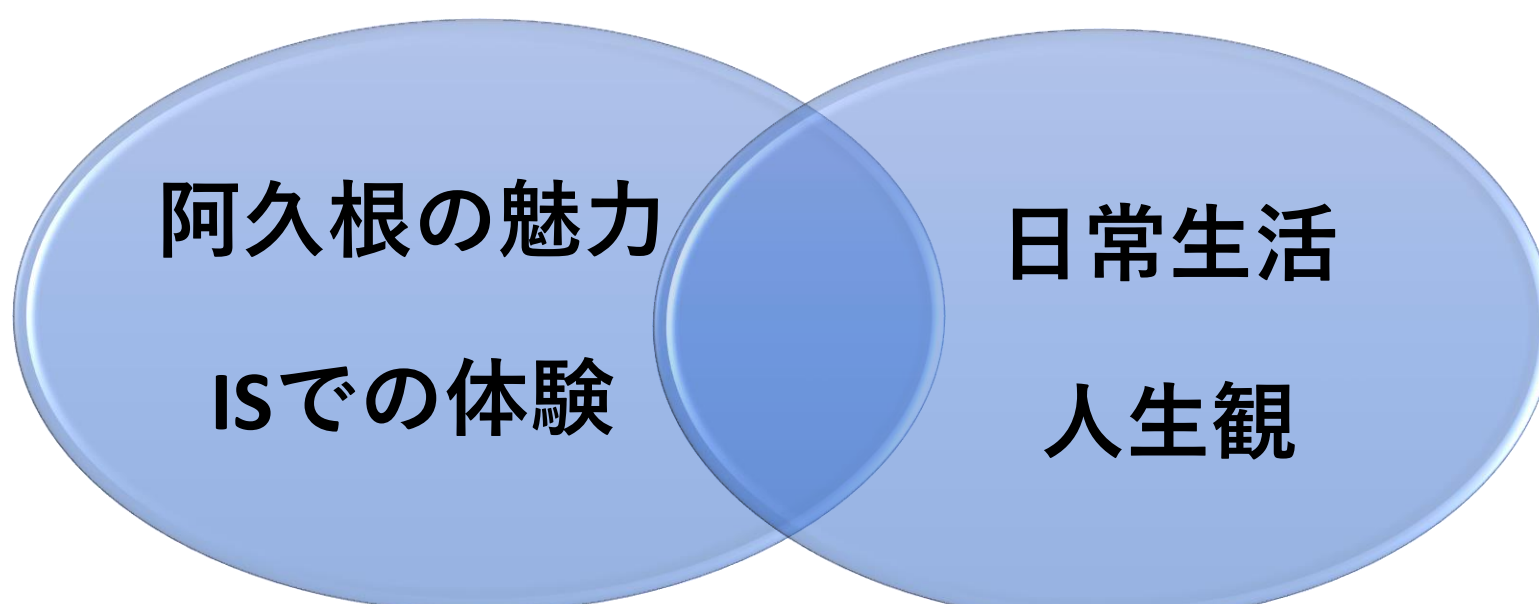
記事の内容

体験・学び・阿久根の魅力

×

日常生活（共感性）

（例）学校生活
幼少期の話



《企業の方からの評価》

- ・企業理念やまちおこし⇔自分の人生観・経験◎
- ・小説風の文体で興味を惹かれた。

《企業との関連》

- ・まちおこし事業などもされている！
- ・企業での体験・イワシビルも記事に！

阿久根を旅するインターンシップ



- 1.初めまして阿久根
- 2.海と阿久根
- 3.イワシと親しむ
- 4.珈琲との出会い
- 5.あくね、ひと、まちおこし
- 6.わたしの阿久根を旅するインターンシップ

note「イワシとわたし」
阿久根を旅する取材インターンシップ#2 より

※実際に作成した記事

《考察と改善》

達成済み

→ISでの体験・阿久根の魅力を活かす記事（言語化）
PRに使用するという目的の実現のための工夫

未達成

→レポ記事の具体的な活用時期・場所の検討
実際の活用と結果収集

阿久根で大人向けのインターンシップをしている
→そのPRや説明に使用できるのではないか。



《言語化での工夫》

①アイキャッチ画像

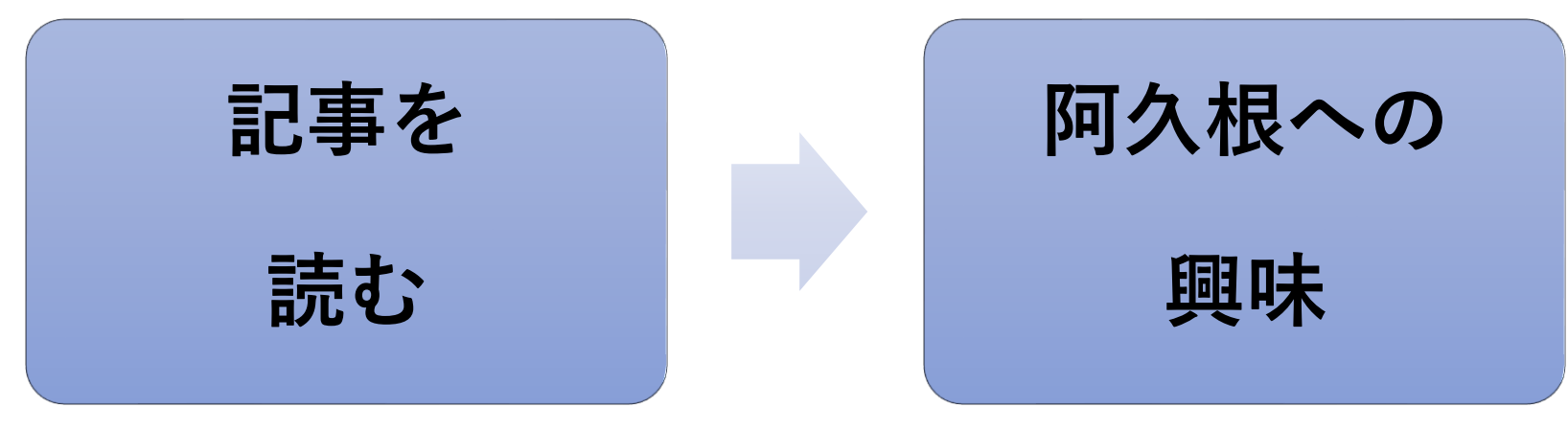
記事の「**顔**」ともいえる存在
→自身で素材集め・編集

②章ごとのタイトル

気になった章のみ読む人もいる

タイトルは簡潔に・題材を明確に！
+興味を引くような

《記事の文体》



学生(I S生)目線・独自性・読み手を意識
+

note記事というフィールド

→小説風の導入-エッセイ風の文体-ユーモラスな文

インターンシップの振り返り

- ・計画性をもって、課題に取り組めた。
- ・自身の持つ「まちおこし」観や人生観というものを深く考えるきっかけとなった。
- ・将来の目標である地域活性化・まちおこしと現在大学で学んでいることば（文学や語学）というものを活かして、レポ記事を作成することが出来た。
- 大学での学びを就職後どう生かすか

反省点

- ・ターゲットの選定や結果の収集など具体的な活用ができなかった。

受入先企業：下園薩男商店
の皆様
貴重な経験をさせて頂き、
ありがとうございました。